

2022年度

## 県内景況・確報

◎概況 **県内景況は新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもと、着実に回復しつつある。**

●2022年度 おきぎん「カトレア」景況図●

## 県内景況



ふつう

## 個人消費



やや良い

## 建設関連



ふつう

## 観光関連



ふつう

## 企業倒産



やや良い

## 雇用状況



やや良い

2022年度の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベースは2年ぶりに前年度を上回りました。既存店ベースは5年ぶりに前年度を上回りました。百貨店売上高は、4年ぶりに前年度を上回りました。耐久消費財である新車販売台数は、4年ぶりに前年度を上回りました。中古車販売台数は2年連続で前年度を下回りました。

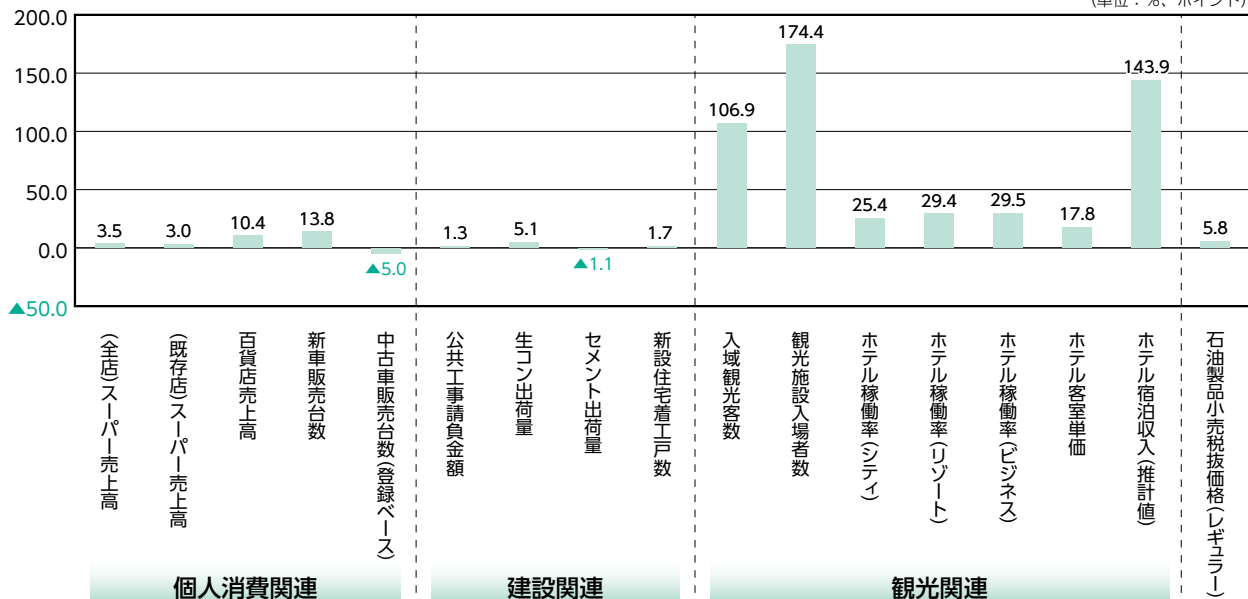
**建設関連**では、公共工事請負金額は2年連続で前年度を上回りました。新設住宅着工戸数は5年ぶりに前年度を上回り、建設資材である生コンは5年ぶりに前年度を上回り、セメントは3年連続で前年度を下回りました。

**観光関連**では、入域観光客数は2年連続で前年度を上回り、観光施設入場者数も2年連続で前年度を上回りました。ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルの全てで前年度を上回りました。ホテル客室単価は2年連続で前年度を上回り、宿泊収入（推計値）も2年連続で上回りました。

このような状況に鑑みて、**新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもと、個人消費は、物価上昇の影響を受けながらも緩やかに回復しています。建設関連は、民間工事に持ち直しの動きがみられます。観光関連では着実に回復しつつあることなどから、「県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもと、着実に回復しつつある。」**と景気判断を引き上げました。

主要景気指標前年度比

(単位：％、ポイント)





# 個人消費



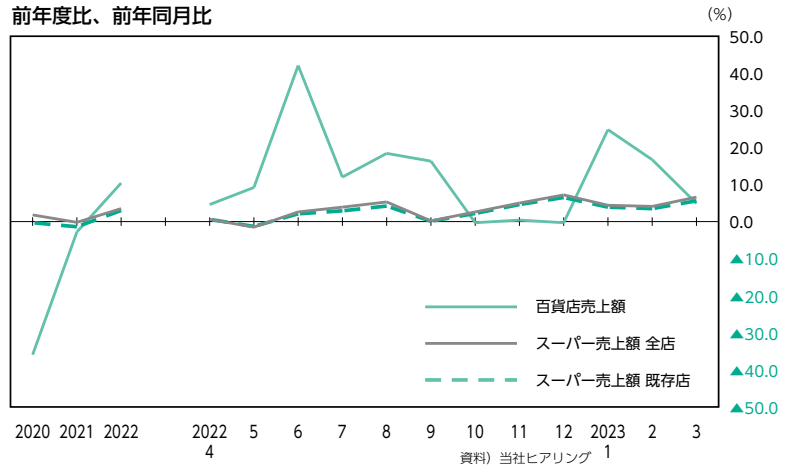
(やや良い)

## ① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベース共に前年度を上回る。百貨店売上高は前年度を上回る。

**2022年度の個人消費関連**は、スーパー売上高が「**全店ベース(前年比3.5%増)**」は、新型コロナウイルスの影響緩和による来店客数の増加や物価高騰に伴う単価の上昇などにより前年度を上回りました。品目別では、ウエイトの高い「**食料品(同3.3%増)**」は、来店客数の増加や物価高騰の影響などにより前年度を上回りました。「**衣料品(同8.8%増)**」は新型コロナウイルスの影響緩和に伴う外出需要の高まりなどにより前年度を上回りました。「**家庭用品(同5.1%増)**」は前年度を上回りました。

「**既存店ベース(同3.0%増)**」は、前年度を上回りました。(以下、既存店ベース)品目別では、ウエイトの高い「**食料品(同2.6%増)**」は、来店客数の増加や物価高騰による単価の上昇などにより前年度を上回りました。「**衣料品(同9.1%増)**」は、新型コロナウイルス感染症の影響緩和による外出需要の高まりなどにより、前年度を上回りました。

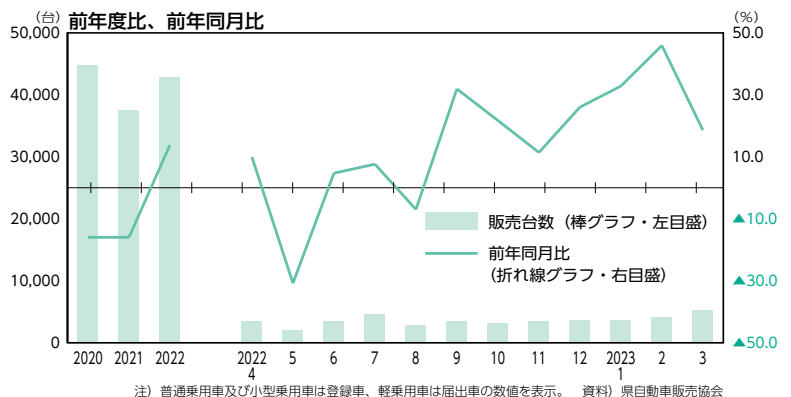
**百貨店売上高**は、新型コロナウイルス感染症の影響緩和による来店客数の増加や消費マインドの回復などにより前年度を上回りました(同10.4%増)。内訳をみると、靴、バッグ等の「**身の回り品(同11.4%増)**」や「**衣料品(同10.0%増)**」は来店客数増加や外出機会の増加による売り上げ伸長などにより前年度を上回りました。「**食料品(同9.5%増)**」や「**その他(同30.0%増)**」は、新型コロナウイルスの影響緩和に伴う催事企画の再開・好調などにより前年度を上回りました。



## ② 新車販売台数…新車販売台数は、前年度を上回る。

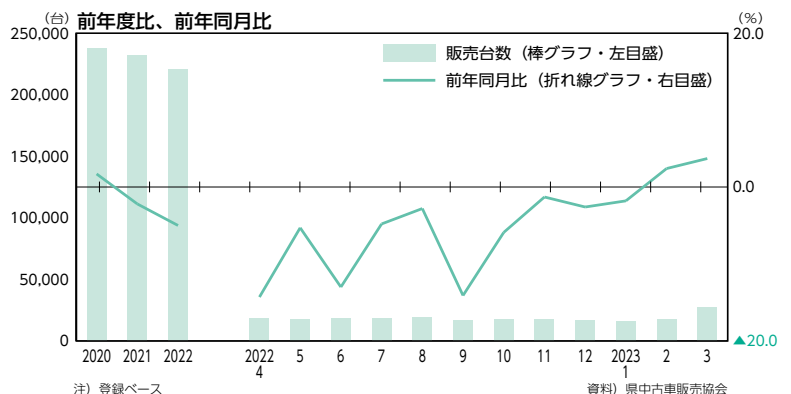
**新車販売台数**は、供給制限の影響が緩和傾向にあることやレンタカー需要の増加などにより、全体で42,777台(同13.8%増)と、前年度を上回りました。車種別では、「**普通乗用車(同23.4%増)**」、「**小型乗用車(同36.3%増)**」、「**軽乗用車(同0.3%増)**」は、いずれも増加し、前年度を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

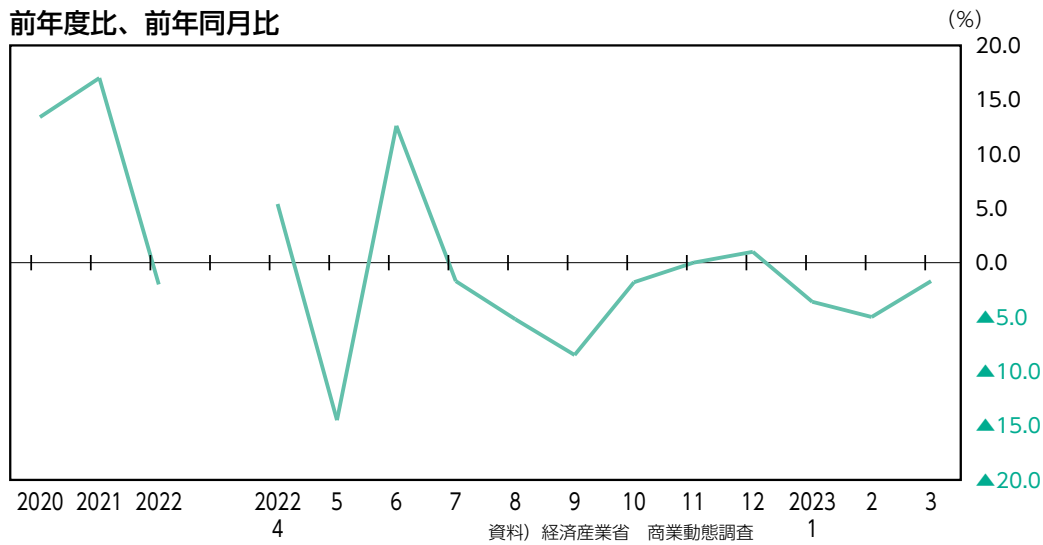


## ③ 中古車販売台数…中古車販売台数は前年度を下回る。

**中古車販売台数 (登録ベース)**は、全体で220,271台(同5.0%減)となり、前年度を下回りました。車種別では、「**乗用車(同7.0%減)**」、「**軽自動車(同3.7%減)**」共に市場の供給減少に伴う価格高騰などにより、前年を下回りました。



④ 大型家電専門店販売額…販売額は前年を下回る。



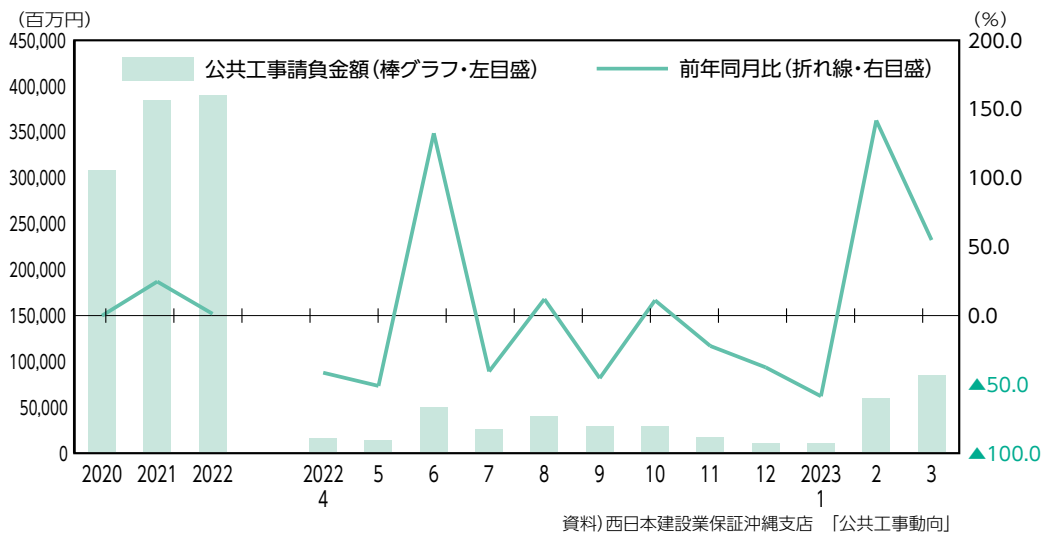
2022年度の**大型家電専門店販売額**は前年度を下回りました。

建設関連



(ふつう)

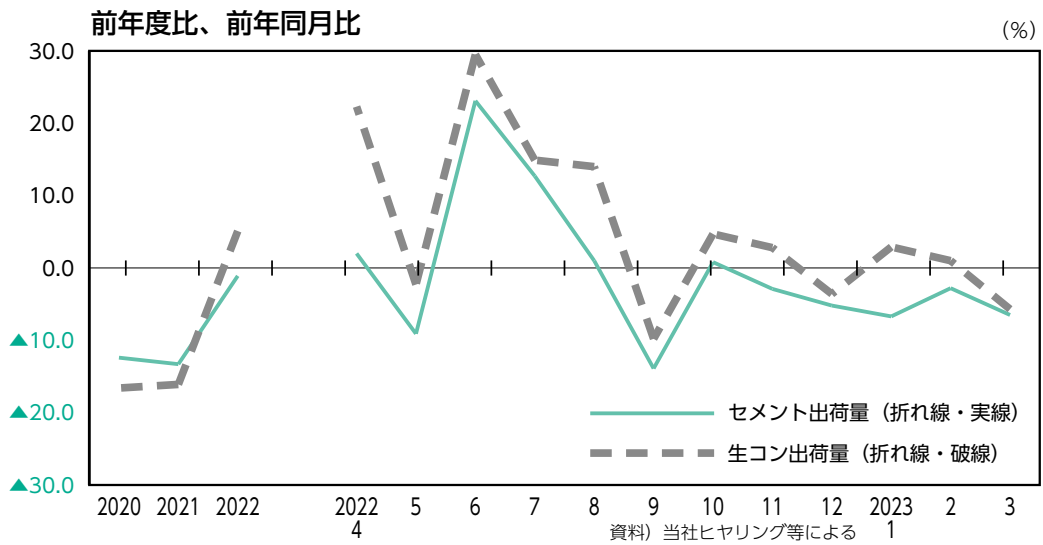
① 公共工事…公共工事請負金額は前年度を上回る。



2022年度の**公共工事請負金額**は、前年度比1.3%増の3,895億5,500万円となりました。発注者別で見ると、「独立行政法人等 (同223.2%増)」、「国 (同6.2%増)」は前年度を上回りました。一方、「沖縄県 (同19.9%減)」、「市町村 (同12.9%減)」、「その他の公共的団体 (同9.9%減)」は前年度を下回りました。

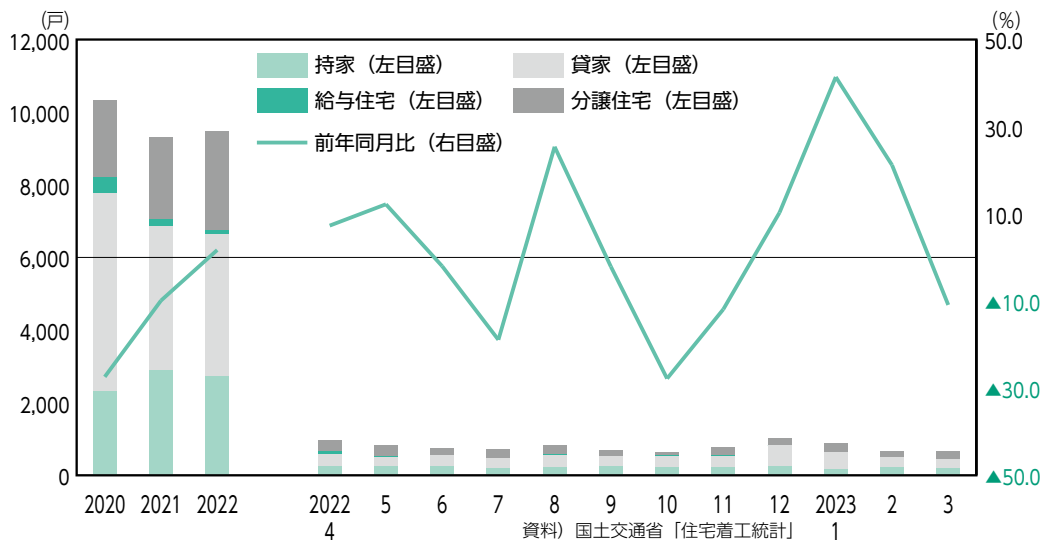


## ② 建設資材…生コンは前年度を上回り、セメントは下回る。



2022年度の**建設資材関連**では、**生コン**の出荷量は5.1%増と前年度を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷は前年度より8.7%上回り、民間工事向け出荷は3.2%上回りました。**セメント**出荷量は1.1%減と前年度を下回りました。

## ③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年度を上回る。



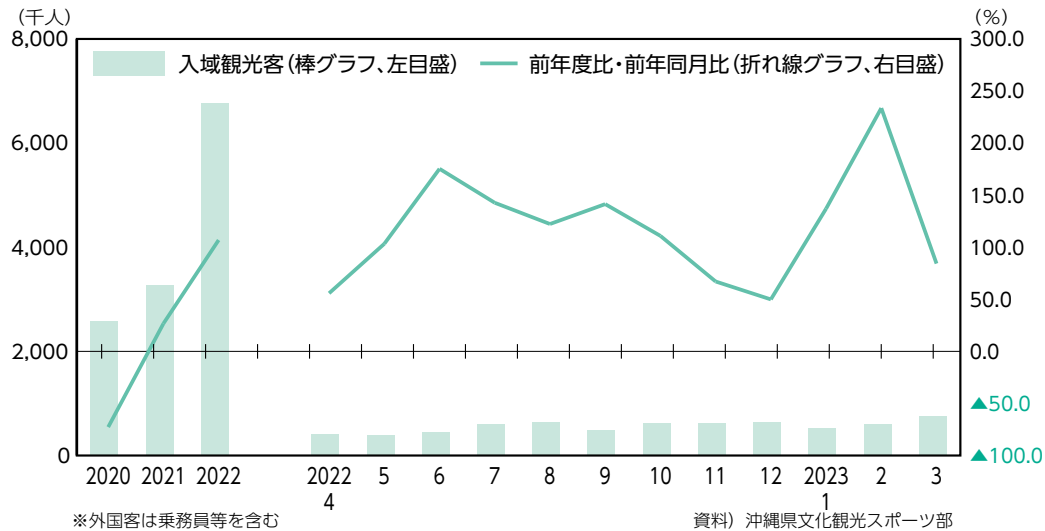
2022年度の**新設住宅着工戸数**は、全体で9,474戸となり1.7%増と前年度を上回りました。利用別戸数をみると、「分譲住宅 (同21.3%増)」は前年度を上回りました。一方、「持家 (同5.9%減)」、「給与住宅 (同53.1%減)」、「貸家 (同1.2%減)」は前年度を下回りました。

## 観光関連

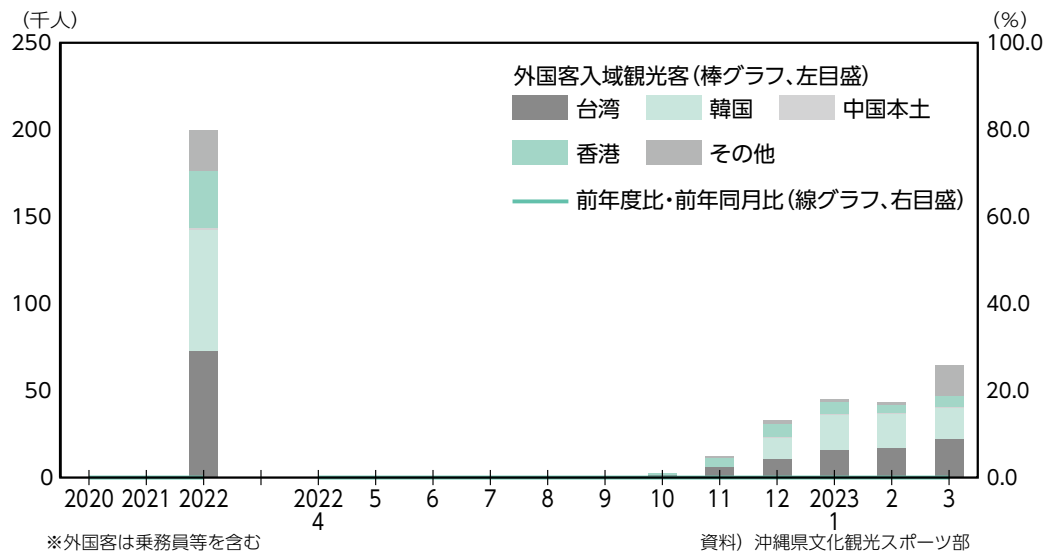


(ふつう)

## ① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…前年度を上回る。



## 外国客 入域観光客数…200.1千人となる。



2022年度の**入域観光客数**は、677.4万人（前年度比106.9%増）となり、前年度を上回りました。内訳をみると国内客は657.4万人（同100.8%増）と、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもと、全国旅行支援の実施や国内航空路線の運休・減便数の解消などにより、前年度を上回りました。

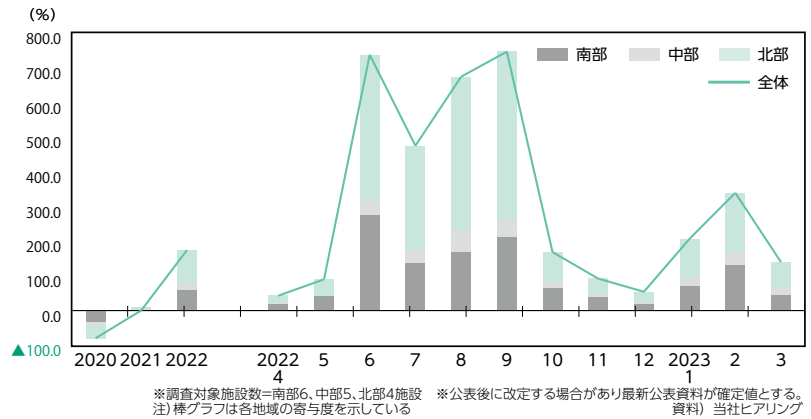
外国客は200.1千人となりました（皆増）。日本への入国制限措置が年度後半より緩和され、航空路線の運航再開などにより3年振りに外国客の来訪がありました。内訳は台湾72.9千人、韓国69.4千人、香港32.8千人、その他24.1千人、中国9千人となっています。中国においては、航空路線の運休が継続しています。



## ② 観光施設入場者数…前年度を上回る。

観光施設入場者数は、全体では前年度比174.4%増加となりました。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の行動制限が緩和されるなか人流が活発化し、入場者数は大きく増加しています。地域別では、北部にある観光施設が同175.2%増、南部が同189.6%増、中部が同130.0%増となりました。

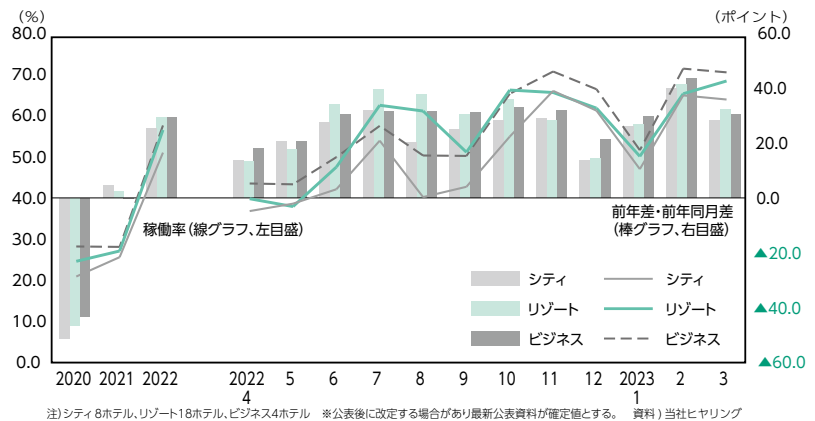
一方、団体客の減少や2次交通の不足などもあり、全体では2019年度比44.8%減少となっています。



## ③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルの全てで前年度を上回る。

2022年度の県内ホテル稼働率は、シティホテルが51.0%と前年度差25.4ポイント増加、リゾートホテルが56.5%と同29.4ポイント増加、ビジネスホテルが57.6%と同29.5ポイント増加しました。稼働率はすべてのホテルタイプにおいて、50%台となりました。

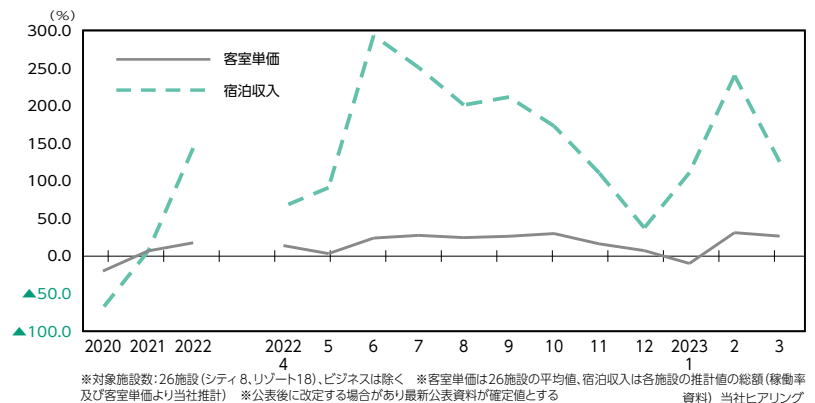
入域観光客数（国内）が前年度比約2倍に増加するなか、ホテル稼働率も行動制限の緩和や全国旅行支援の実施などにより、約2倍に上昇しています。



## ④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年度を上回り、宿泊収入も上回る。

ホテル客室単価（シティ&リゾート）は前年度比17.8%増と前年度を上回り、宿泊収入も同143.9%増と前年度を上回りました。

2019年度比でみると、ホテル客室単価は全国旅行支援の実施やリニューアルなどにより1.1%増加しています。一方、客室収入においては稼働率低下（2019年度比）により18.8%減少となっています。





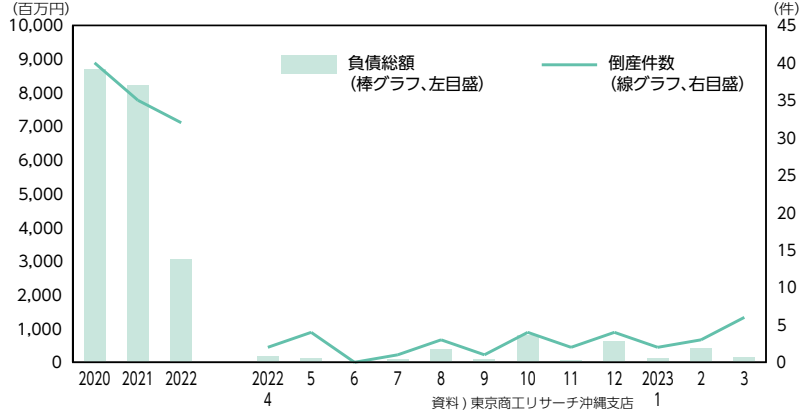
企業倒産



(やや良い)

企業倒産…件数、負債総額ともに前年度を下回る。

2022年度の**企業倒産件数**は、32件（うち大口倒産（負債総額1億円以上10億円未満）は9件）となり、前年度より8.6%下回りました。**負債総額**は30億5,900万円となり、前年度より62.8%下回りました。



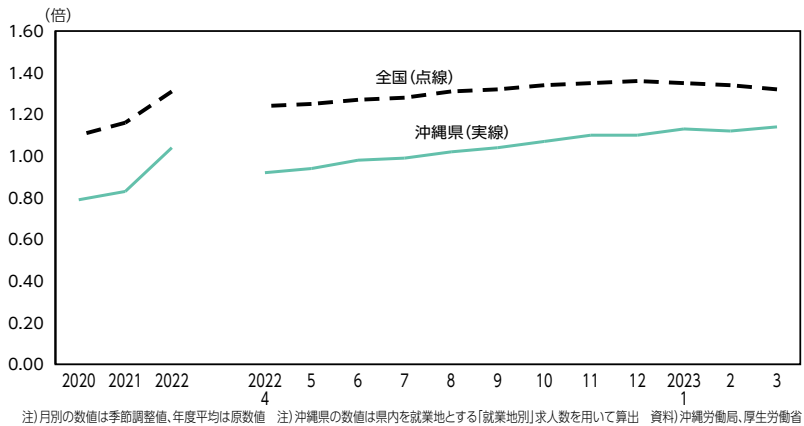
雇用関連



(やや良い)

① 有効求人倍率…沖縄、全国はともに前年度より上昇。

2022年度の**雇用状況**は、月間有効求人数（年度平均）は前年度比24.7%増の32,125人に対して、月間有効求職者数（同上）は前年度比1.3%減の30,765人となり、**有効求人倍率（同上）**は1.04倍と、前年度より0.21ポイント上昇しました。



② 完全失業率…沖縄、全国はともに前年度より低下。

2022年度の**完全失業率（年度平均）**は、3.2%となり前年度より0.4ポイント低下しました。

